

研究課題「高齢者の血管性認知症に対する、循環動態に着目した、予防法及び治療法開発のための基盤研究（臨床観察研究）」に関する情報公開

1. 研究の対象

2017年7月1日～2017年12月31日に、当院で重篤な合併症のない、65歳から75歳の高血圧管理を行っていらっしゃる方

2. 研究目的・方法・研究期間

2017年現在、我が国の認知症患者数は300万人を超えつつあります。このような認知症の患者さんに対する治療法は、残念ながらまだ限られた状況にあるのが現状です。従って現段階では、認知症は発症予防が未だに最も重要であると言えます。近年の認知症に関する研究成果は、様々なタイプの認知症の発症や悪化に、脳循環が強く関与していることを示唆しています。脳循環は、脳血管病変など脳側の因子と、血圧や心機能など全身循環側の因子との、連関によって規定されますが、未だその連関性は完全には明らかにされてはいません。本検討では、65歳から75歳の重篤な合併症のない高血圧の患者さんを対象として、脳循環の状況を反映する指標であるMRI画像上の脳変性の進行度と全身循環状況に関する様々な指標との関連性を、縦断的に調査し分析することにより、最終的には認知症の発症や悪化に対して、適切な予防方法や治療方法を確立することを目的とするものです

具体的な方法としては、診察時に生理検査、血液生化学検査、頭部のMRI検査、そして高次脳機能検査の予約をとり、各検査の実施予定の日程をお伝えします。どの検査も、既に診療の際、治療経過の評価を目的として定期的に行っている、通常検査です。2年後に再度同じ検査を実施します。本研究の全体期間は平成29年7月1日より平成32年3月31日までの予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：身長、体重、年齢、性別、内服薬、既往歴等

検査項目：心臓超音波検査、頭部MRI、頸動脈超音波検査、上腕・足関節血圧比/脈波伝播速度(ABI/PWV)、24時間自由行動下血圧・心拍数測定、血液生化学検査、高齢者用うつ評価尺度(GDS15)、ミニメンタル・ステート検査(MMSE)、高次脳機能検査等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関のデータセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、本学の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

(共同研究機関)

国立長寿医療研究センター・循環器内科部・部長・清水敦哉

国立長寿医療研究センター・循環器内科部・医師・野本憲一郎

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院 医学系研究科 病態内科学講座 循環器内科学

准教授・ 因田 恭也 (研究責任者)

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

直通電話番号： 052-744-2147

研究代表者：

国立長寿医療研究センター・循環器内科部

循環器内科部・部長・清水敦哉